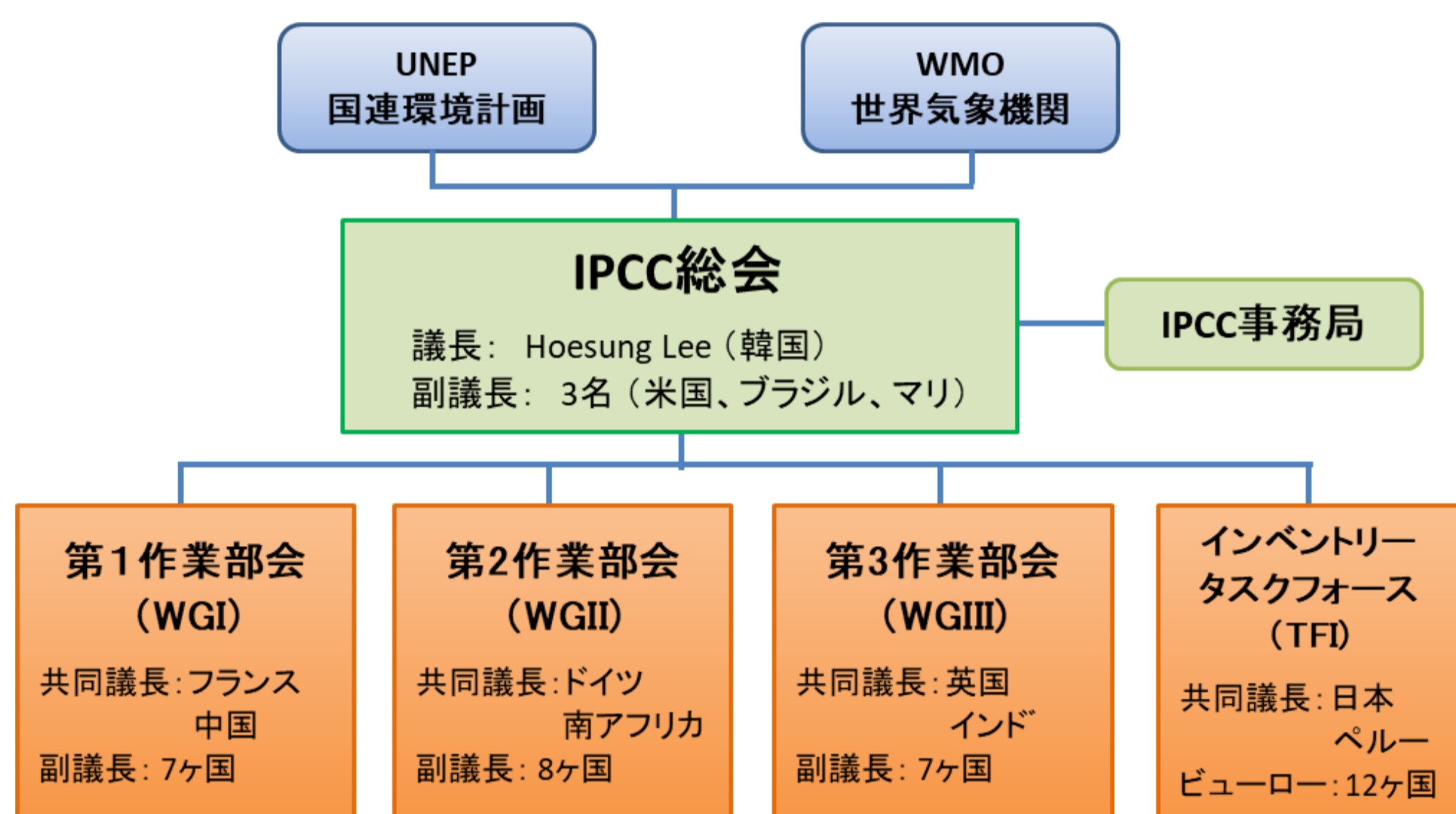


気候変動緩和の科学的根拠に関する 国際動向調査

IPCC (Intergovernmental Panel on Climate Change; 気候変動に関する政府間パネル)

- ◆ 1988年に国連環境計画 (UNEP) と世界気象機関 (WMO) により設立され、195ヶ国が加入。
- ◆ 地球温暖化に関する科学的、技術的、社会経済的な知見の収集とその評価を、科学的根拠 (第1作業部会; WGI)、影響と適応 (第2作業部会; WGII)、緩和 (第3作業部会; WGIII) の観点から実施して、報告書を作成しています。
- ◆ これまでに第1次から第5次の評価報告書、多くの特別報告書等が作成され、気候変動に関する国際連合枠組条約 (UNFCCC) における温暖化抑制の目標数値に係る取り組み指針の科学的根拠となる等、気候変動の国際交渉の方向性に影響を与えてきました。
- ◆ **第6次評価報告書 (AR6) は、WGI報告書 (昨年8月)、WGII報告書 (今年2月)、WGIII報告書 (今年4月) が既に公表され、あと、統合報告書が2023年3月に承認・公表される予定です。**
- ◆ RITEは経済産業省から委託を受けて、IPCC国内連絡会WGIII事務局を担当し、IPCC総会への参加等を通じた情報収集と分析、緩和策に関するアウトリーチ活動等を実施しています。



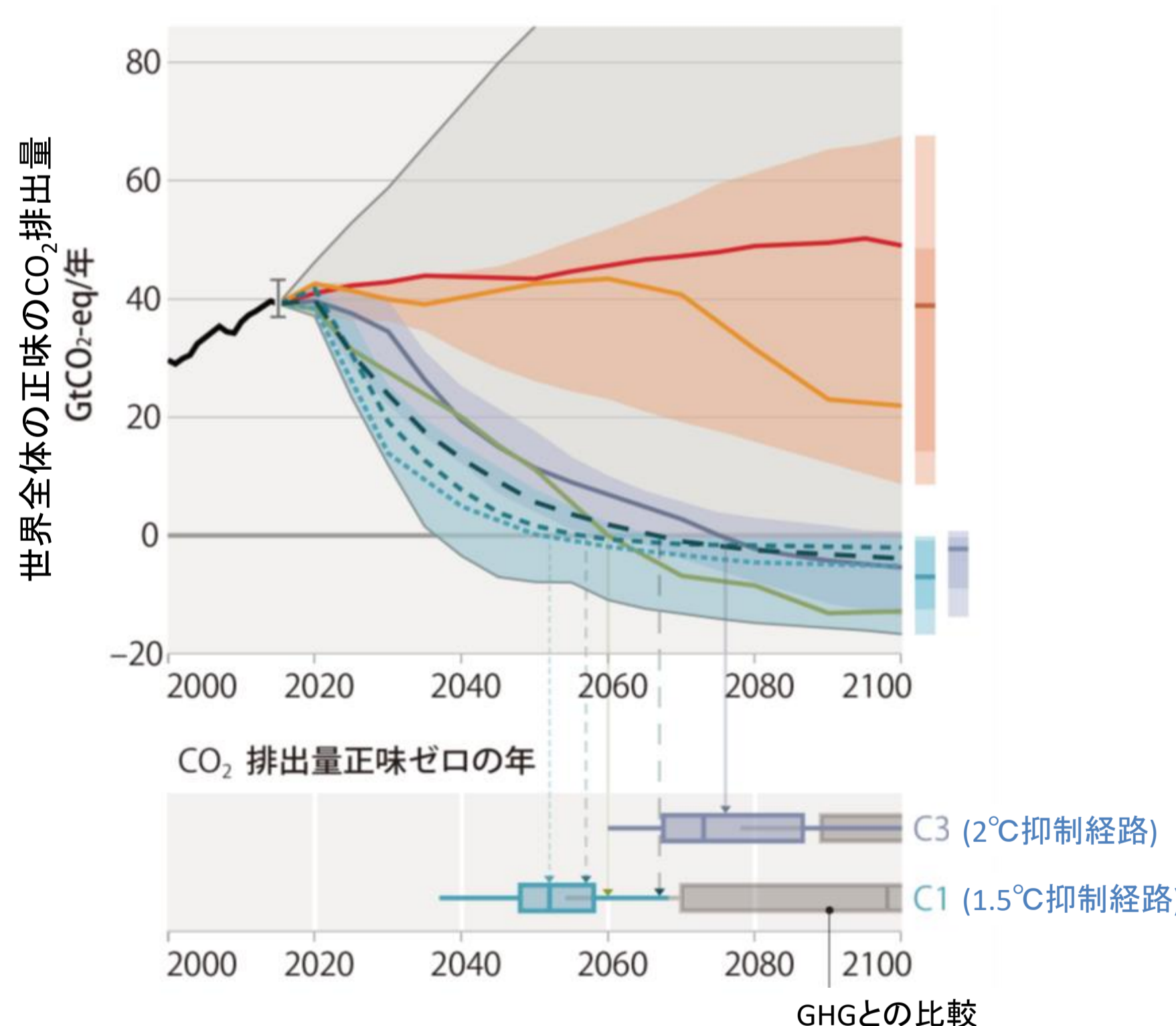
第1作業部会 (WGI) 自然科学的根拠	・気候システム及び気候変動についての自然科学的側面から評価を行う
第2作業部会 (WGII) 影響・適応・脆弱性	・生態系、社会経済分野における気候変動への脆弱性や適応性について評価を行う
第3作業部会 (WGIII) 緩和策	・温室効果ガスの排出削減など気候変動に対する緩和策について評価を行う
インベントリー・タスクフォース (TFI)	・温室効果ガスの国別排出量・吸収量のインベントリー作成手法 (方法論) の策定及び改善

第6次評価報告書 第3作業部会報告書 (AR6 WGIII) の概要

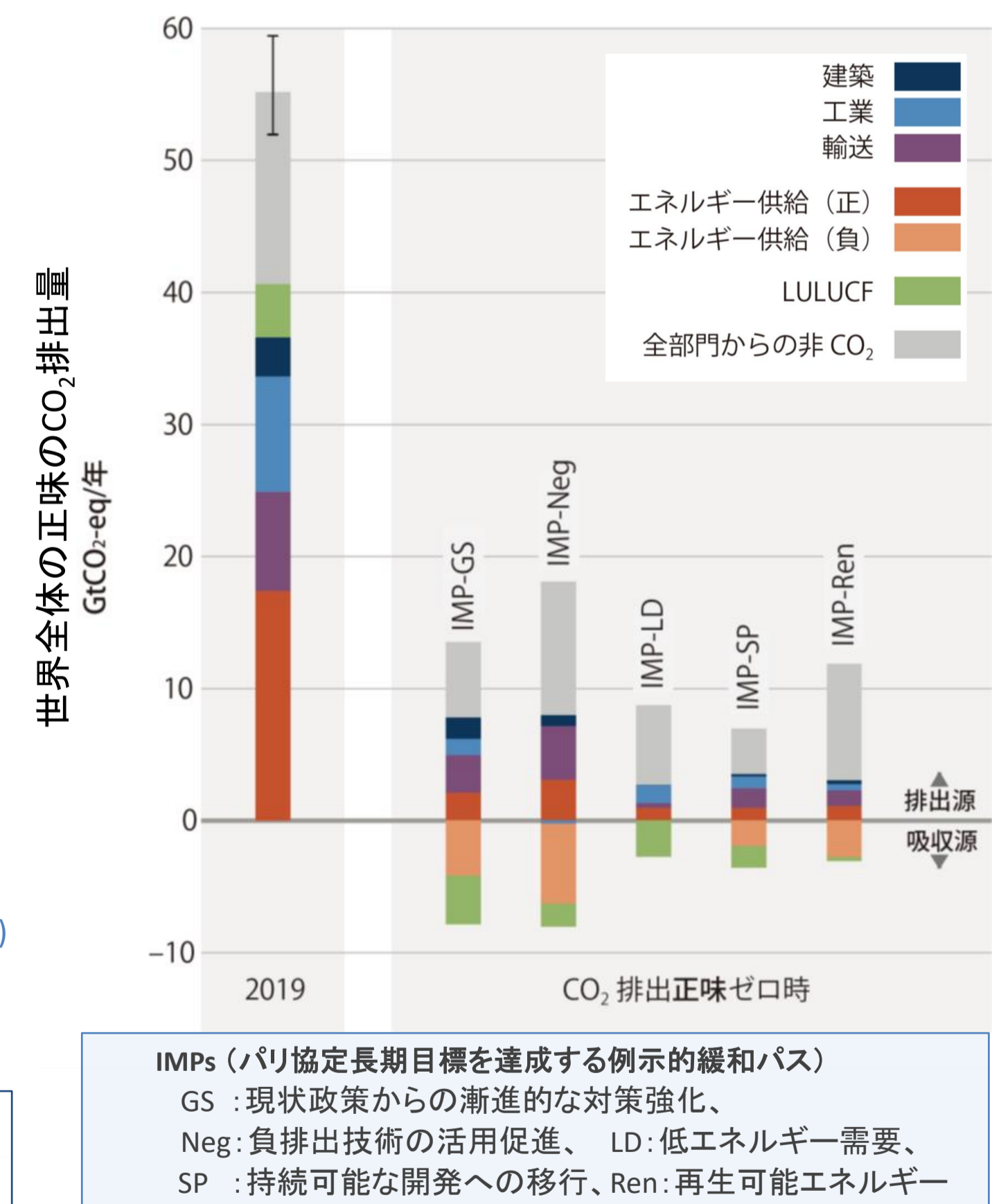
AR6 WGIII 報告書の構成

要約	
・政策決定者向け要約 (SPM)	・技術要約 (TS)
本文	
序論	
1章. 序と枠組み	
排出傾向・促進要因・経路	
2章. 排出傾向と駆動要因	} (経路を2分割)
3章. 長期目標に対応する緩和経路	
4章. 短・中期的な緩和と開発の経路	
5章. 需要、サービス、緩和の社会的側面 (NEW)	
セクター別対策	
6章. エネルギーシステム	9章. 建築物
7章. 農林業及びその他の土地利用 (AFOLU)	10章. 運輸
8章. 都市システムとその他の居住地	11章. 産業
12章. 部門を超える/またぐ視点	
制度・国内および国際的な政策	
13章. 国と地方の政策及び制度	
14章. 国際協力	
金融および技術	
15章. 投資とファイナンス	
16章. イノベーション、技術開発及び移転 (独立した章としてNEW)	
SDGsとの相乗効果・相反効果	
17章. 持続可能な開発の文脈での遷移加速	

世界全体の正味のCO₂排出量



CO₂正味ゼロ達成時の排出・吸収バランス



- ✓ 1.5°C、2°Cに抑える緩和経路モデルは、深く急速で持続的な排出削減が必要。
- ✓ CO₂正味ゼロ排出の達成のためには、削減が困難な残余排出量を相殺するCDRの導入が不可欠。(CDR: CO₂除去技術)

